

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 27 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24330119

研究課題名(和文)伊藤忠兵衛家同族による事業経営の研究 - 総合商社伊藤忠商事・丸紅成立前史の分析 -

研究課題名(英文)A Study on the Business Management of the Ito-Chubei Group Companies: An Ancient History of the General Trading Company ITOCHU Corp. &amp; MARUBENI Corp..

研究代表者

宇佐美 英機 (USAMI, Hideki)

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号：60273398

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)： 滋賀大学経済学部附属史料館に保管されている伊藤忠兵衛家文書、伊藤長兵衛家文書、伊藤忠商事史資料、丸紅株式会社史資料の整理・目録作成を進めるとともに、これらを用いて伊藤家同族事業経営の実態について検討を行った。また、米国・英国・韓国において関連資料の調査・収集を実施した。この結果、同族事業経営にかかる史資料は総計で約70,000点が伝来すること、これらの史資料は学界未知のものがほとんどであり、一般公開に供することにより、伊藤家同族事業経営のみならず、戦前期の商業史・商社史研究に新しい知見をもたらすことが確実だと思われる。

研究成果の概要(英文)： Historical documents of the Ito-Chubei, Ito-Chobei, ITOCHU Corp. and MARUBENI Corp. were examined in this study. Almost 70,000 documents concerning the Ito family business were reviewed, collected both domestically and internationally from countries such as the USA, UK and South Korea.

These documents were unknown to the greater academic world until now, thereby extending Japan's historical business history to a much wider public audience. However, since only 70% of this archive has been completed, additional research will be required to finalize this study in a timely manner.

研究分野：経営史

キーワード：伊藤忠兵衛家文書 伊藤長兵衛家文書 伊藤忠商事史資料 丸紅株式会社史資料 伊藤家同族事業

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は2003年8月、2008年3月に滋賀県犬上郡豊郷町八目に所在する伊藤忠兵衛記念館の土蔵・物置から発見された伊藤忠兵衛家伝来の文書、および同家を創業者とする伊藤忠商事株式会社、丸紅株式会社所蔵資料が2010年2月に、いずれも滋賀大学経済学部附属史料館に搬入されたことを受け、これらの資料群を整理・目録作成する必要性が生じたことに始まる。

これらの文書群については、平成21年～23年度に科学研究費助成(基盤研究(C)・課題番号21530339)を受け、まず優先的に伊藤忠兵衛家文書の整理作業と一部資料のマイクロ撮影を進めてきたが、膨大な資料群であり、期間中に約37,000点の資料仮目録を作成するにとどまった。

(2) 上記期間中の作業では、上記の資料群が全体としてどれほどの点数になるのか、まったく推測しがたいままで、いったん研究費助成事業を終えなければならず、それではほとんどの資料が学界未知のものであること、上記研究期間中に整理した資料からはこれまで知られていない史実が明らかになるなど、極めて貴重な資料群が閲覧・利用できないままになることは自明の事であった。

それゆえ、引き続きこれらの資料群を整理し目録を完成させ、一般公開に供する学術環境を整える必要があった。

(3) これらの資料群は、原蔵者の意向により、整理・目録完成を待って一般公開に供されることになっており、全体の資料点数の確認、すなわち少なくとも仮目録を完成させることが焦眉の課題としてあった。

(4) しかし、整理期間においても、伊藤忠兵衛家同族事業経営に関わる研究を進めることは学術的意義を有することから、共同研究を実施する研究者については、その利用を許されており、滋賀大学経済学部企業経営学科教員を中心として商社史研究会を発足させ、これら教員を共同研究者として新規に科学研究費助成申請を行い、幸いに採択された。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究において第一に優先したことは、これらの資料群を整理し目録を完成させることであった。同時に重要な資料についてはマイクロ撮影、電子カメラ撮影を実施し、一般公開に供するべく閲覧環境を整えることを考えた。

(2) しかし、資料は膨大な量であり、この作業のみに注力すると伊藤忠兵衛家同族事業の実証分析、翻って伊藤忠商事・丸紅の経営史研究は、かつてのように両社の社史の記述に依拠せざるをえないままになり、それは第一次資料が発見されている以上、史実の確定に不安が残ることになり、結果的に誰も分析対象とすることを避けるようになる。

(3) それゆえ、一方で資料の整理を進めるとともに、伊藤忠兵衛家同族事業に関わる

種々の資料を用いて共同研究を進め、その成果を公表することを企図した。

(4) 共同研究の際には、忠兵衛家の本家である長兵衛家に伝来した資料群も参照するとともに、同族事業経営は国外にも及ぶことや2代忠兵衛は1909年4月から1910年10月の間、米英に滞在し近代的な経営について学んだことに鑑み、関連史料の調査・収集を目的として海外調査も実施し、いずれも滋賀大学経済学部附属史料館に集約し、後日の一般公開・利用に備えることにした。

(5) これらの作業・共同研究は、これまで不明であった伊藤忠兵衛家・長兵衛家の事業経営の変遷について、細部にわたって新しい史実を提供することになり、ひいては、総合商社伊藤忠商事・丸紅の成立前史を書き改めることを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 原資料群のほとんどは、手書きのものであり、目録を作成するためにはくずし字解読能力をもつ院生・社会人を雇用する必要があった。この作業には、期間中に3～5名が平均して週に一日ずつ従事してもらった。

(2) 共同研究は、伊藤忠兵衛家事業経営の沿革史を共通理解するために、『伊藤忠商事100年』『丸紅前史』の記述から1858年の創業から1949年に過度経済力集中排除法によって大建産業が4社分割されるまでを分担研究者の関心に沿って読み、細部の点については新発見の資料で補足する形で進めた。

(3) あわせて伊藤忠「本部旬報」を共通テキストとして、明治41年～大正9年の期間を中心に事業経営の統合・分割にともなう経営の変化を検討した。

(4) また、明治19年に伊藤西店(ラシャ店)、同26年に伊藤糸店を開店して以降、外国貿易に進出したことに鑑み、海外支店を開設した地域において関連資料の調査を実施することを企画した。最初の対米雑貨貿易や英国商館との取引、2代忠兵衛の米英滞在实际を解明するべく、米国・英国で関連資料の有無を調査することとした。

## 4. 研究成果

(1) 優先的な作業として進めた資料群の整理・目録作成に関しては、伊藤忠兵衛家文書が約51,000点であることが、ようやく判明した。伊藤忠史資料は約580点、丸紅株式会社史資料は約2,520点であることも確認できた。この資料点数は、複数の資料が一括して閉じられている場合に1点として数えた仮目録によるものであり、本目録はそれら一括されている資料についても資料調書を探り目録に反映させる作業を続けている。それゆえ、上記の資料点数は実数で約70,000点になるのではないかと予想している。

両社の資料については、分類項目を立てて2年以内に資料目録を完成させ、一般公開に供することができると思っているが、忠兵衛家

については、その限りではない。

また、上記資料群のうち、伊藤忠史資料を除く資料群のなかから、一部の資料についてはマイクロ撮影、電子カメラ撮影を行い、DVDコンバートを実施した。これらは、紙の劣化が進んでいるため、公開時に原本の閲覧を制限せざるを得ないもの、あるいは「本部旬報」「社報」など、今後利用頻度が高いと思われるものを優先して選択した。

(2) 事業期間内に伊藤忠兵衛家・長兵衛家から新たに資料が発見され、いずれも「後発見文書」として整理・仮目録の作成を行った。

なお、古書籍店を通じて伊藤忠商事・丸紅関係の原資料、文献も購入したが、いずれも附属史料館で目録化の後、閲覧利用に供する予定である。

(3) 長兵衛家に関わっては、すでに附属史料館で公開されている「伊藤長兵衛家文書」には含まれていなかった、戦前期の韓国において経営していた伊藤農場関係資料が発見されたことにより、かねて情報を得ていた韓国で所蔵されている伊藤農場関係資料の調査を実施した。その結果、韓国全羅北道全州歴史博物館が所蔵する資料は、平成6年に長兵衛家旧宅を解体した時に出た農場関係資料であり、大阪の古書籍店から購入したものであると判明した。これらの資料については、写真撮影の後、仮目録を作成し全州歴史博物館に提供した。同館からは、日本国内の研究者に仮目録を公開しても良いとの許可を受けているが、本目録に修正し韓国語訳をするためには、再度の調査が必要と考えているため、活字化は保留している。

(4) 伊藤忠兵衛家事業経営については、下記の「5. 主な発表論文等」を参照願いたい。が、これまでの研究史が両社の社史の記述を典拠としてきたが、新出の資料をもとに社史の記述の誤りや社史にも出てこない史実を解明したこと、したがって通説を部分的に改めたことは特筆しておきたい。

(5) これまで知られていない資料の一部については、資料を翻刻して公刊した。それら以外に店法・定款・内則類についても翻刻を終えている。しかし、活字化して公刊することはできなかった。そのため、平成28年度内にはワーキング・ペーパーの形で公表する予定である。

(6) また、これまでの研究では海外の資料所蔵機関を調査し、資料の有無を確認したものは見当たらないが、サンフランシスコ公立図書館において日本雑貨貿易商関係資料、National Records of Scotland において Findlay, Richardson & Co., Ltd. に関する資料、全州歴史博物館において伊藤農場関係資料を収集した。いずれも新出の資料であり、今後の伊藤家同族事業経営の歴史を分析する上で重要な意義を有するものと考えている。

(7) 平成26年度の附属史料館企画展「伊藤忠兵衛家・長兵衛家同族事業経営の沿革～

地商いから商社へ その2～」を、10月14日～11月7日の期間に附属史料館・市場史研究会とともに共催し、図録の作成と刊行に協力した。また、研究代表者(宇佐美英機)が10月25日に「両伊藤家伝来史料にみる事業経営の歴史」と題して講演を行った。講演録は、『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』48号、2015年に収録した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9件)

宇佐美英機、日本雑貨貿易商社の転居と入居ビル、同志社大学経済学論叢、査読無、64巻4号、35-50

宇佐美英機、伊藤「本部旬報」について、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、46号、49-58

伊藤博之、コーポレート・ガバナンス論の系譜学 「よい統治」の探求をめぐる「現在の歴史」、滋賀大学経済学部研究年報、査読無、Vol.19、55-74

宇佐美英機、二代伊藤忠兵衛(精一)のイギリス滞在にかかる「本部旬報」記事、滋賀大学経済学部ワーキング・ペーパー、査読無、No.203、1-30

宇佐美英機、二代伊藤忠兵衛のイギリス滞在時の通学先について、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、47号、9-21

伊藤博之、組織統治論の構想 企業文化論と統治性の交差点から考える一、滋賀大学経済学部研究年報、査読無、Vol.20、1-22

竹中厚雄、多国籍企業における企業の教会の理論的視角、彦根論叢、査読無、398号、110-123

宇佐美英機、近江商人研究と「三方よし」論、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、48号、31-45

伊藤博之、経営人材の社内育成とゼネラル・マネージメントー経営の「スキル」と「徳」の観点から一、滋賀大学経済学部附属リスク研究センターDiscussion Paper、査読無、J-46、1-24

〔学会発表〕(計 2件)

宇佐美英機、伊藤忠兵衛家同族事業経営研究の意義、市場史研究会第62回大会、平成26年10月26日、滋賀大学

伊藤博之、地方企業家と企業化活動、日本ベンチャー学会題18回全国大会、平成27年11月1日、小樽商科大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

宇佐美英機 (USAMI, Hideki)  
滋賀大学・経済学部・教授  
研究者番号：60273398

##### (2) 研究分担者

伊藤博之 (ITO, Hiroyuki)  
滋賀大学・経済学部・教授  
研究者番号：20242969

澤木聖子 (SAWAKI, Shoko)  
滋賀大学・経済学部・教授  
研究者番号：40301824

弘中史子 (HIRONAKA, Chikako)  
滋賀大学・経済学部・教授  
研究者番号：10293812

竹中厚雄 (TAKENAKA, Atsuo)  
滋賀大学・経済学部・准教授  
研究者番号：30363899

陳 韻如 (CHEN, Yunju)  
滋賀大学・経済学部・准教授  
研究者番号：00389404

柴田淳郎 (SHIBATA, Atsurou)  
滋賀大学・経済学部・准教授  
研究者番号：10437452

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：